

大阪・関西万博の運営における 資源循環に係る基準について

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
持続可能性部



グリーンビジョンに示された具体的取組の実現に向けて

- 「EXPO 2025 グリーンビジョン」に示された具体的取組の実現に向けては、①大阪・関西万博の開催者として博覧会協会が自ら取り組むことに加えて、②会場内における参加者や営業出店者と一体的に取り組むことや、③会期後・会場外にレガシーを残すことも視野に入れて参加者、来場者、市民等が参加して取り組むことも必要。
- とりわけ②については、参加者や営業出店者に対し、大阪・関西万博の運営における資源循環に関して理解・協力を求める事項について、あらかじめガイドラインなどにおいて基準等を示す必要があることから、これまで資源循環勉強会における検討を踏まえて取りまとめた資源循環に係る対応の方向性（案）について、持続可能な調達ワーキンググループ（調達WG）においてご意見をいただき、その後、資源循環に係る対応の方向性（案）に即して、参加者や営業出店者に対して基準等として示すべき事項について、調達WGにおいてご議論いただく予定としていたところ。
- このたび、新たに資源循環WGを設置したことに伴い、今後、資源循環に係る対応の方向性に関しては、調達WGにおけるご意見を引き継ぎ、資源循環WGにおいてご議論・ご検討いただきますい。

【参考】これまでの調達WGにおける資源循環に関する主な意見（1/2）

- 大阪・関西万博の運営における資源循環に係る対応の方向性（案）に関してこれまでの調達WGにおいて委員からいただいた主な意見は次のとおり。
 - 一般の方々のイメージとしては、大阪・関西万博の開催が終わった後にばりばりと壊して産業廃棄物が出て、それをトラックが運んで外に持って行くというのは、非常にわかりやすく、無駄にしもったいないことしているのではないかなとなる。終了後、基本的には全部更地に戻すので、非常に課題はある。そこが一番目立つし、この時代に即していると思われない。これを今から考えるとしても、リユースを意識して材料などを調達しないといけないわけなので、急いで対応しなければいけないと思う。今から企業や特に海外パビリオンが自ら探すのは大変なので、例えば博覧会協会が窓口を作っていわゆるリユースを求める人を募集して斡旋するなどしないと難しいのではないかなという気がする。
 - 国際的なイベントを実施して発信するときに、いかに環境だけではない持続可能性に配慮しているかという運営全体の調和を作っていくことは大事。いわゆる調達物品のリユース・リサイクルに関しては早めに動き始めたほうがいいのではないか。
 - パビリオン運営主体がどんなパビリオンを作ってどんな調達をするのかは一定の裁量があると思うが、そこを博覧会協会が働き掛けをしていくのが遅いと難しい。そう考えるとやはり早い段階で、どんなものを調達して、調達したものをリユース・リサイクルしていくためには、エクスペクテーション（期待）を共有するための一定の文章があったほうがいいし、その支援ということも重要。

【参考】これまでの調達WGにおける資源循環に関する主な意見（2/2）

- 大阪・関西万博の運営における資源循環に係る対応の方向性（案）に関してこれまでの調達WGにおいて委員からいただいた主な意見は次のとおり。
 - サーキュラーエコノミーや大阪ブルー・オーシャン・ビジョンを万博会場の中だけでなく、大阪周辺あるいは関西圏でも取り組んで、それが後々日本全体に広がるようなレガシーにつながるような取組ができるといい。
 - 海洋プラスチック問題に対し、マイボトルが使用できる環境を整えるなど、具体的なプラスチック削減に向けた議論ができる。例えば、水道水を提供することはペットボトル削減につながることで、日本は安心して水道水が飲める国であることをPRするいい機会になる。
 - 廃棄物を発生させない会場、リデュース・リユースを徹底した会場運営ということを示しておいたほうが社会で関心のある方々にわかりやすい。廃棄物は極力リサイクルとあるが、その前に分別の徹底というのが非常に大事。分別の徹底とリサイクルということを記載するのがいい。
 - 使い捨て型のプラスチックは使用しないといった強いリーダーシップをとってもいい。コーヒーショップなどでリユース型のステンレス製のカップを使用してどこのお店でも返却できるというシステムを導入するなど、新しい暮らし方を提案してもいい。
 - 食品ロスはゼロを目指していけるといい。
 - ごみの分別について、関西圏の大学生や地域の廃棄物問題に関心のあるNGOと協力しながら推進体制を作っていくことがこれから必要。

資源循環に関して基準等として示すべき事項について（1/4）

- 大阪・関西万博の運営における資源循環に関して、参加者や営業出店者に対し、あらかじめガイドラインなどにおいて基準等として示すべき事項のイメージは次のとおり。

（プラスチック対策を中心とした食器類の取組）

- ・ レストラン等のフルサービスを提供する際は、陶器、金属等のリユース食器を使うことを原則とすること。
- ・ キッチンカー等通常使い捨て容器が用いられる可能性が高い場面においてもプラスチック等のリユース食器を導入できるよう検討すること。
- ・ ワンウェイ容器を使う場合には、食品と一緒に堆肥化可能なものとする。
- ・ フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー等カトラリー類についてもリユースするものを使うことを原則とし、ストローをはじめとしてワンウェイのものを使う場合には堆肥化可能なものとする。
- ・ 堆肥化可能なものを使えない場合には、開催者が別途示す資源化ができるものを採用すること。

（プラスチック対策を中心とした飲料容器の取組）

- ・ 飲食施設において飲料をテイクアウトで提供する場合は、来場者が持参したマイボトルなどの容器を利用することができるよう努めること。

- 飲食施設においては、来場者の希望に応じて水を入れるなどマイボトルが使用できる環境を整えることが望ましい。
- ペットボトルについては、色付き等リサイクル困難なものを使わないこと。

資源循環に関して基準等として示すべき事項について（2/4）

- 大阪・関西万博の運営における資源循環に関して、参加者や営業出店者に対し、あらかじめガイドラインなどにおいて基準等として示すべき事項のイメージは次のとおり。

（プラスチック対策を中心とした容器包装、ノベルティ等配布物、一般的なプラスチックの対策）

- ・ 商品の容器包装は少なくなるよう配慮すること。
- ・ レジ袋については、生分解性のものの利用や有料化など、開催者が別途示す方式に従うこと。
- ・ うちわを配布する場合は、プラスチックを用いたものは禁止（紙や木、竹製等環境に配慮した素材のものとする）とする。
- ・ チラシ、リーフレット、パンフレットについては極力電子的に配布して紙の排出量を減らすこと。
- ・ 不織布おしぼりについては、削減する方策を検討すること。
- ・ 素材が何であるかに関わらず、使い捨てのものをできるだけ減らすこと。



資源循環に関して基準等として示すべき事項について（3/4）

- 大阪・関西万博の運営における資源循環に関して、参加者や営業出店者に対し、あらかじめガイドラインなどにおいて基準等として示すべき事項のイメージは次のとおり。

（食品ロス対策）

- ・ 開催者が別途示す対策例等を参照し、食品ロス削減に努めること。
- ・ 会場内の飲食事業者は来場者数を予測したものを事前に知らせる ので来場者予測に応じた食材の調達量をコントロールすること。
- ・ 食材の調達方法を工夫し、食品ロスの削減に努めること。
- ・ 無理なく食べきれる量やサイズのメニューの提供等の方法を検討すること。
- ・ 無理なく食べきれる量やサイズのメニューを注文するよう来場者に呼びかけること。
- ・ 食品衛生にも配慮しつつ売れ残りそうな弁当等を希望者が簡単に入手できるような仕組づくりに参画すること。
- ・ 賞味期限や品質が担保された余った食材でこども食堂等で利用可能なものをフードバンク等に渡せるような仕組に協力すること。



資源循環に関して基準等として示すべき事項について（4/4）



- 大阪・関西万博の運営における資源循環に関して、参加者や営業出店者に対し、あらかじめガイドラインなどにおいて基準等として示すべき事項のイメージは次のとおり。

（資源循環・その他）

- ・ 店内装飾及び会場装飾は可能な限りリサイクル可能なものを使用すること。
- ・ 物品の納品における輸送用具は再使用可能なもの（通い箱など）を用いるよう努めること。

（廃棄物について）

- ・ 廃棄物の分別は協会が別途定める規則に従って行うこと。
- ・ 「ごみの適正処理に関するガイドライン」を遵守すること。

